

# 私たちの手で支えあいの地域をつくる

▷お問い合わせ 芦屋町社会福祉協議会  
(☎222-2866)

## 「サロンはまぐち」と「リハビリセンターひびき」の連携

—買い物+「〇〇」で心も体もリフレッシュ！—

普段のサロンでは体操や脳トレをすることが多い浜口区の皆さん。今回は、買い物をする人がない人を誘って、令和6年10月10日に社会福祉法人孝徳会「リハビリセンターひびき」の協力のもと若松区の複合商業施設に遠出しました。

### ■買い物だけじゃない、さまざまな効果があります

店内では買い物や会話を楽しむ「サロンはまぐち（浜口区の地域交流サロン）」の皆さんの姿がありました。広い店内を歩き「今日はたくさん歩いたね」、「いつもとは違う雰囲気の中だと会話がはずむ」と休憩スペースで話に花を咲かせていました。「最近聞こえが悪くなって」と補聴器の相談へ行く人など、目的はさまざまで「買い物」だけが目的ではありません。「もっといたかった」という人もいましたが、無理はせず、適度な交流でいい運動にもなっていました。題名の「〇〇」は「介護予防」、「地域交流」、「認知症予防」、「つながり作り」など、さまざまな言葉が入ります。地域の皆さんで出かけることでさまざまな効果が期待できます。



### ■浜口区の皆さんは支え合い上手

買い物をするとき助け合う姿が見られました。買い物中に歩行が難しくなった人には、地域の方が店舗の車椅子を借りて介助することで、買い物を続けていました。また、公民館に戻り購入品を自宅へ持ち帰るときは、付き添う人の姿があるなど、近隣の住民同士で支えあっている様子が見られました。



### ■社会福祉法人の地域貢献活動

地域の社会福祉法人や団体などが地域貢献活動に取り組むことで、地域住民の交流が活発になり住みやすい地域になっていきます。今回のリハビリセンターひびきとサロンの連携は地域の交流を支える大きな力になっていました。



芦屋町で地域交流・貢献活動がしたいという法人・団体は芦屋町社会福祉協議会に連絡してください。

# 芦屋歴史紀行

その三百四十五

## 芦屋町出身の芸術家たち

2月22日(土)より、福岡県立美術館所蔵品巡回展「移動美術館展」芸術の海へ飛び出そう3館をめぐる芦屋アートの旅」を開催します。この展覧会は、福岡県立美術館が毎年県内各地の市町村で開催し、選りすぐりの美術作品を紹介するものです。今回は、移動美術館展で作品を展示する芦屋町出身の芸術家を紹介します。

### ●中西耕石 (1807～1884)

筑前芦屋中小路出身の南画家です。若いうちから京にのぼり、松村景文(1779～1843)に日本画・四条派を学びました。その後、大坂に出て篠崎小竹(1781～1851)に漢学を学ぶと、再び京都に戻り小田海僊(1785～1862)に南画を学びました。耕石は、幕末の南画界で日根対山(1813～1869)と並び称され、明治維新後には京都を代表する南画家として活躍しました。1882年には、京都府画学校(現京都市立芸術大学)の教職に就きました。門下から、吉岡祥山(1846～1915)

らを輩出し、福岡県南画壇の育ての親ともいわれます。



▷中西耕石「蓮花彩色山水」19世紀

※南画とは、中国の元・明の絵画に影響を受けて、江戸時代後期に成立した画派の一つです。池大雅や与謝蕪村によって大成されました。

### ●田中繁吉 (1898～1994)

芦屋町山鹿出身の洋画家です。1916年、東筑中学校を卒業後、上京。本郷洋画研究所で岡田三郎助(1869～1939)の指導を2カ月受けたのち、東京美術学校(現東京藝術大学)の西洋画科に合格。入学後は、藤島武二(1867～1943)の指導を受けました。1921年に東京美術学校を卒業後、同研究科へ進学。翌1922年に第4回帝展へ「ロミちゃんの庭」(芦屋町蔵)を出品し、見事初入選を果た

しました。研究科卒業後は、通信省貯金局で働きながら、絵の勉強を続けていきましたが、1925年関東大震災の発生により失職。これをきっかけに1926年パリへ留学し、美術学校で2年間学びました。帰国後の1933年、第14回帝展に「三人裸像」(共立女子大学蔵)を出品し、特選となるなど、繁吉の作品は高い評価を受けました。その後も精力的に活動し、1963年と1987年の2度、紺綬褒章を受章しました。



▷田中繁吉「ロミちゃんの庭」1992年

次回の歴史紀行では、福岡県立美術館の所蔵品の中から、注目作品を紹介します。

(芦屋歴史の里)

## 編集後記

▼高浜町公園には、戦後の一時期まで芦屋町にも鉄道が走っていた記憶をとどめるために、蒸気機関車(D6061)が静態保存されています。この形式の蒸気機関車は、日本全国でもわずか4台しか現存していない貴重な車両です。町では、この貴重な蒸気機関車を末永く保存していくために、SLの愛好家団体である汽車倶楽部(直方市)の協力のもと、2か月に一度清掃などの保守作業を行っています。今回、2月号表紙撮影のために、NPO法人汽車倶楽部の江口さんが直方市から協力に来てくれました。芦屋中央幼稚園の1歳児クラスの皆さんも、誰一人動き回らず写真を撮らせてくれました。雨が降り出す前に急いで撮影を終わらせる必要があったのですが、1歳児8人の視線をカメラに集めるのにとっても苦労しました。1歳児に大人気のパンのキャラクターのうわをカメラマンの背後から「いないいないばあ」とのぞかせると、さすがの求心力で園児たちの注目を集めてくれました。撮れた写真をこどもたちに見せると「ここ！」と写っている自分を教えてくれて、終始こどもたちの可愛さに癒された撮影でした。(野中)

